

これが「企業の労働110番」です



(一社) 名北労働基準協会
ホワイト企業推進本部 本部長
RSTトレーナー 石田和彦

昼食を終え、午後からの業務を始めようとした時、トゥルトゥル〜と着信コールが鳴った。「はい、こちら企業の労働110番です」。電話の主は、小牧市に

ある製造業の管理課長さんでした。「昨年梅雨が明けた暑い日に、当社の工場内で製品の仕分け作業をしていたA君が急に意識を失い救急車で運ばれました。

コロナ禍の熱中症予防

その後病院で熱中症と診断され、2週間休業しました。今年はどういった事が起こらないよう、事前に熱中症対策を講じたかと考えています。コロナ感染予防でマスクも着用しており熱中症のリスクも高まっている中、どうしたらいいでしょうか」とのご相談でした。

分類してきましたが、現在では、一連の症状を総称して「熱中症」と呼ぶようになりました。これらの症状は、対応の仕方や被災者側の体調によって刻々と変化しますから、

「熱中症」とは、暑熱環境に身体が適応できずに起こるさまざまな状態の総称です。従来、症状によって、熱失神、熱けいれん、熱疲労、熱射病に

症状分類にとらわれずに「熱中症」ととらえることが大切です。愛知県内では熱中症で、過去10年間で19人が死亡しています。

熱中症は、建設業や運送業、駐車場の警備などの、屋外作業の職種にし



か関係がないように思われがちですが、製造業、倉庫業さらには小売、飲食業などの屋内作業の人種でもかかりうる疾病です。熱中症には特有の症状がなく、早期発見が困難

なため、予防対策の実施が重要です。休憩は日陰等でとり、水分補給に加えて塩飴、スポーツドリンク等での塩分補給が必要

また、職場、作業現場にWBG T値（暑さ指数）測定器を備え、現場の状況を把握

下

特にコロナ禍では、人と十分な距離が確保できる場合「こまめにマスクを外す」、のどが

「こまめに水分補給をする」ことが必要です。熱中症は、きちんと対策を講じること、確実に予防できる疾病です。特に熱中症の防止には、現場管理者による作業管理と迅速な対応が不可欠であり、管理者に対する教育が鍵を握っていると

いつでも過言ではありま

せん。しかしながら、多くの企業で管理者に対する定期的な教育が、実施されていないのが現状です。

ご相談の管理課長さんにはまず、管理者に対する教育を行うようお願いしました。

当協会では、熱中症対策のキーマンである、各職場・各工事現場の管理者の方を対象とした「熱中症予防管理者研修」を実施しています。「熱中症から仲間を守る」ためにも是非ご活用ください。詳細につきましては、本誌同封案内もしくはホームページをご覧ください。（お問合せ先：当協会総合受付 ☎052-961-1166）

イラスト・木村武司



名北協会 熱中症
で検索